

令和7年度 第1回 学校運営協議会の報告（6月24日開催）

出席者 木原俊行（会長）、富士原純一（副会長）、中川智皓（委員）、山本博資（委員）、岡田千景（委員）
網代典子（委員） ※中川委員は GoogleMeet にて出席
欠席者 神田敏生（委員）

以下の意見をいただいた。

○令和6年度学校評価、令和7年度学校経営計画について

- ・学校経営計画については大きな変更は見られないが、単年度目標イメージの資料からは学校運営のイメージがよくわかる。
- ・4本柱となっている国際教育について、もっと戦略としての打ち出してもよいのではないか。
- ・DXについてどのように取り組むかを具体的に考えたほうがよい。
- ・課題探究においては大阪府をリードする取り組みを計画しており評価できる。
- ・学校特色枠は、学校としてどのようなものを打ち出すかを分かり易く明確にする必要がある。
- ・音楽科に関しては30周年事業を通じてさらなる魅力発信を行いたい。
- ・万博参加に向けての取組みなどすばらしい取り組みである。ぜひ頑張ってもらいたい。
- ・自宅学習についての指導が必要である。

令和7年度 第2回 学校運営協議会の報告（11月25日開催）

出席者 木原俊行（会長） 富士原純一（副会長）、中川智皓（委員）、山本博資（委員）

神田敏生（委員） ※中川委員は GoogleMeet にて出席

欠席者 網代典子（委員）、岡田千景（委員）

以下の意見をいただいた。

○探究の取組を中心に、多くの生徒が万博への参画できたことは非常に刺激になったことと思う。

この効果を単年のことで終わらせることなく継続して行ってほしい。

→大阪府の合同発表会を企画している。これまで課題探究と言うと、ある一定のグルーピング（例えば、工科高校やSSHといった形）の中で切磋琢磨という形だったが、もっと広く誰でも参加できる共同型の課題探究発表会を模索している。普通科、工科高校、定時制や支援学校などさまざまな学校が社会について考える課題探究というのを活用していけるようにしたい。

○DX ハイスクール指定を受けて、今後どのような取組を進めていくのかももう少し具体的にききたい。

生成 AI の扱いについてはどのようにしているか。

→2年生のテーマに沿ったゼミ形式の活動の中に DX チームを立ち上げて活動していく。

校内にこんなものがあつたらいいというもの実際に作ってみる。メタバース空間で作って、実際に学校説明会とかいろんな場面で使えるようなレベルまで持っていくなどの活動を想定。

3 年生選択科目「デジタル数学」でプログラミングやデータ分析、統計学に触れておく。

○課題探究でこれだけ生徒たちが力をつけて成果も出してるということと、特色枠選抜がどこかで接点を持てると思う。

○課題探究潜在力を測定するのは本当に難しいことだが、本校において、課題探究を発展させる基礎的な力を持っているというようなことを、この学校特色枠で測るという説明になっていくと思う。

○国際交流のアンケート結果が良くなっている。具体的な変化として見えるもの（例えば英検合格率が良くなっている等）も示していただけるとよい。

○生徒のアンケート結果を見ると随分と自己肯定感が高まっているように見受けられる。自信が持てることが効果として出ていると感じた。また、普段の行動から保護者も学校に預けて安心できるという思いがあるのではないかと感じた。

○学校教育自己診断結果の中で1つだけ、家庭での学習はしっかり取り組めたかの項目は、他と違い全体で 62.2%。1年生は 50% 切って 48%。これでいいという見方もできるかもしれないが、他の項目と並ぶとちょっと異色な存在になっている。どう認識したらいいのか皆さんと考えたい。

令和7年度 第3回 学校運営協議会の報告（2月5日開催）

出席者 富士原純一（副会長）、中川智皓（委員）、山本博資（委員）、岡田千景（委員） ※中川委員は
GoogleMeetにて出席

欠席者 木原俊行（会長）、神田敏生（委員）

以下の意見をいただいた。

○令和7年度学校評価、令和8年度学校経営計画について

- ・学校行事に関する生徒の肯定率は96.4%と高く、生徒による自主的な運営が評価された。
- ・教科・分掌の取り組みで肯定率が69.0%と目標（70%）に僅かに届かなかった点については、アンケート項目（カリキュラム・マネジメント等）の用語理解の乖離が原因の可能性があるととして、次年度の改善課題とする。
- ・LGH指定期間の最終年として、全教員が1人1回以上のICT活用授業および研究レポート作成を実施し、100%の達成率となったことに評価を得た。
- ・万博効果もあって海外交流の認知度が高まり、生徒の満足度は98.7%に達した。現在、オーストラリアの2校（ブリスベン近郊およびパース）と姉妹校提携を進めており、来年度夏から本格的な派遣・受け入れを開始する予定。
- ・音楽科については3年連続で定員を充足し、定員割れの課題を克服した。JR西日本との連携や大阪・関西万博のフィナーレ出演など、学外での活躍も目立った。
- ・働き方改革については、大阪府の指導のもと指定された10名の教員を含め全員が時間外勤務の枠内をクリアし、ストレスチェックも安全圏内となった。
次年度は、これまでの「安定」から「ステップアップ」と「攻めの運営」への転換を図る。
- ・大阪府の中核（モデル校）となり、教育委員会や教育センターと連携して、府内全体の課題探究研究を牽引する組織体を構築する。
- ・DXハイスクールの指定を受け、「デジタル数学」の開講、3Dプリンターや高性能PCを活用した「ものづくり」、AI活用のガイドライン策定と実践を進める。
- ・音楽科については、積極的に魅力を発信するフェーズへ移行する。2年生からは音楽科の探究活動を充実させ、フェニックスホールとの連携による専門的な研究を行う。

<議決事項> 令和7年度学校評価、令和8年度学校経営計画